

選択的評価基準

3. 地域貢献の取り組みについて

従来から、学科別にいくつかの地域貢献事業の取組はなされていたが、本格的に組織化されたのは、平成 19（2007）年度に地域貢献室が設置され、平成 20（2008）年度に「地域連携・貢献センター」が発足してからである。同センターの設置目的は「本学が地域の知の拠点としての機能強化のため、産官民学の連携を図るとともに、本学が有する知的財産を地域開放することにより、地域振興に資すること」である。

地域連携・貢献センターの組織は、各学科から教員 2 人程度の委員（平成 24（2012）年度は、幼児教育学科 3 人、美術学科 2 人、ビジネス実務学科 3 人で計 8 人）と事務組織の企画部で構成されている。

基準（1）地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等を実施している。

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等については次のとおりである。

(1) 公開講座

金城大学との共催で平成 24（2012）年 4 月 28 日～11 月 17 日まで 20 回の講座を開催した。本学担当は 10 回で、各学科の専任教員が専門分野の知見を踏まえ地域住民を対象に講義を行った。参加者数は延べ 729 人であった。

(2) 第 8 回地域子育て支援フォーラム

平成 25（2013）年 2 月 16 日（土）に「地域で支える子育て～魅力ある地域社会をめざして～」をテーマとした子育て支援フォーラムを開催した。本学教員と行政関係者、保育士、地域の支援員などが「子育ての社会的環境を巡る問題と支援の可能性～地域社会の住民組織構造を中心に～」という問題提起を受け、子育て支援に関してそれぞれの抱える課題と取り組みの工夫についてのパネルディスカッションや課題解決に向けてどんな取り組みが考えられるかグループディスカッションを行った。

(3) 幼児教育学科の出張講座

幼児教育学科の各教員の専門分野に応じた内容で、幼児教育現場を対象にした出張講座を実施している。受付期間を前期 4～9 月、後期 10～12 月、実施期間を 4 月～3 月として本学ホームページ上でも募集情報を公開し、広く募集・実施している。県下に、保育の質的向上をもたらす役目は、かなり果たしているといえる。

平成 24（2012）年度の実施状況は、次表のとおりである。

	申込み園名	講座テーマ	講師名	実施日	備考
1	かもめ保育園	楽しく歌いましょう	水上和子	4/16 (月)	金沢市
2	あらや保育園	自閉症児との関わり	中村明成	4/25 (水)	小松市
3	こぼと保育園	国際理解：21世紀の子ども	ガート・ウェスタハート	4/26 (木)	小松市
4	エンジェル保育園	個人研究の進め方	和泉美智枝	5/9 (水)	白山市
5	郷保育園	造形指導のポイント	森田ゆかり	5/10 (木)	野々市市
6	動橋保育園	幼児への歌唱指導	遠藤伊津子	5/12 (土)	加賀市
7	双葉町子どもの家保育園	子どもの絵の見方・考え方	森田ゆかり	5/17 (木)	金沢市
8	弓取保育園	人に対する話し方・関わり方	五十嵐峰子	5/19 (土)	金沢市
9	栗津温泉保育園	パパの育児、ママの仕事	五十嵐峰子	5/21 (月)	小松市
10	まちの保育園	英語で五感遊び	ガート・ウェスタハート	5/22 (火)	輪島市
11	大釜屋保育園	英語で五感遊び	ガート・ウェスタハート	5/26 (土)	能美市
12	ひばり保育園	子どもを語ろう	中村明成	6/5 (火)	金沢市
13	みなと保育園	保育の質と自己評価	和泉美智枝	6/7 (木)	金沢市
14	河井保育所	英語で五感遊び	ガート・ウェスタハート	6/12 (火)	輪島市
15	聖ハル乳児保育園	保育の質と自己評価	和泉美智枝	6/12 (火)	金沢市
16	なかよし幼稚園	気になる子の保育について	山田紀子	6/13 (水)	小松市
17	松南保育園	困難をかかえた子どもの保育	和泉美智枝	6/13 (水)	白山市
18	北部保育所	子どもの絵は心のメッセージ	森田ゆかり	6/15 (金)	内灘町
19	山王保育園	乳幼児の発達心理	米川祥子	6/15 (金)	金沢市
20	広岡保育所	子どもを語ろう	中村明成	6/15 (金)	金沢市
21	メロン幼稚園	パパの育児、ママの仕事	五十嵐峰子	6/16 (土)	金沢市
22	明成幼稚園	子育てを楽しもう	山田紀子	6/16 (土)	金沢市
23	湊保育園	子育てを楽しんでいますか	米川祥子	6/20 (水)	白山市
24	美川保育園	子育ての楽しいヒント	和泉美智枝	6/20 (水)	白山市
25	ほりうち保育園	楽しい発声指導と簡易合唱	朝倉喜裕	6/21 (木)	野々市市
26	森坂保育園	呼吸・発声遊びから歌遊び	遠藤伊津子	6/22 (金)	津幡町
27	弓取保育園	論語から学ぶ人間関係	三浦哲志	6/23 (土)	金沢市
28	広岡保育所	現代っ子に造形遊びが必要なワケ	森田ゆかり	7/6 (金)	金沢市
29	山代保育園	親の役割、家庭での躾・食育	和泉美智枝	7/14 (土)	加賀市
30	国造保育園	英語で五感遊び	ガート・ウェスタハート	10/10 (水)	能美市
31	こども家庭課	保育の質と自己評価	和泉美智枝	10/10 (水)	小松市
32	かみやち保育園	パパの育児、ママの仕事	五十嵐峰子	10/16 (火)	金沢市
33	金城幼稚園	気になる子の保育について	山田紀子	11/5 (月)	金沢市
34	いしかわ保育園	歌って元気に	水上和子	11/8 (木)	白山市
35	おやこの広場あさがお	こどもの絵は身体と心のメッセージ	森田ゆかり	11/14 (水)	白山市
36	おやこの広場あさがお	こどもの絵は身体と心のメッセージ	森田ゆかり	11/21 (水)	白山市
37	白楊幼稚園	英語であそぼう・国際理解	ガート・ウェスタハート	11/17 (土)	小松市
38	城北児童館	子どもの発達とピアヘルピング	米川祥子	12/10 (月)	金沢市
39	蝶屋保育園	乳児の保育の基本	和泉美智枝	1/19 (土)	白山市
40	蝶屋保育園	乳児の生活と遊び	和泉美智枝	2/23 (土)	白山市
41	金城幼稚園	気になる子の保育	和泉美智枝	3/4 (月)	金沢市
42	蝶屋保育園	乳児期における発達の中のことば	和泉美智枝	3/27 (水)	白山市

(4) 教員免許状更新講習会

教員免許状更新制度の開始から毎年講習会を開催している。平成 24 (2012) 年度は、講座名「障害児保育・教育における創造性と協調性」で 8 月 11 日 (土) に教諭 (幼稚園、小学校、特別支援学校) を対象に 6 時間の講座を開講した。5 人の受講者があった。

(5) 生涯学習授業

石川県内の 20 高等教育機関で構成する大学コンソーシアム石川の事業の一つであるシティカレッジは、社会人に対する生涯学習の場を提供しており、本学教員も講師として参加している。

(6) 正規授業の開放

幼児教育学科では、平成 23（2011）年度より「リカレント教育」として、本学科の特色である「特化教育」の授業を開放している。既卒者や現場保育者を対象としており、平成 24（2012）年度は 6 人の受講があった。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

特になし。

(c) 自己点検・評価を基に改善計画を記述する。

特になし。

基準 (2) 地域社会の行政、商工業、教育機関及び文化団体等と交流活動を行っている。

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

本学では、地域社会の行政、商工業、教育機関及び文化団体等と交流活動についても活発に行っており、平成 23（2011）年度には、地元白山市と包括協定を、白山市経済団体連絡協議会と産学連携包括協定をそれぞれ締結した。さらに地元金融機関とも包括協定を締結している。平成 24 年度の主な活動状況は次のとおりである。

(1) 子育て研究委員会

白山市の行政担当者・保育者・地域子育て支援者・地域民生委員ら（16 人）と本学教員（2 人）で構成し、『子育て・子育てを巡る問題状況と保育者への期待』をテーマに定期的に（6 回）開催した。本学教員が話題提供者となり、白山市の地域子育て課題について、各委員が現状報告や意見を出し合った。普段は知り合うことのない関係者が、本委員会をきっかけに知り合い、互いの活動内容を理解し合えたことは大きな成果のひとつである。「地域課題を解決するためには、個の団体（association）それぞれで活動していても決して十分とは言えず、地域社会（community）として活動することが必要である。そのためには、まず個々の役割を担う人と人がつながることが大切だ」という考えにまとめ、第 8 回地域子育て支援フォーラムにそのテーマをつなげた。

(2) 病院への学生作品貸し出し

県内の病院へ美術学科卒業制作優秀作品の貸し出しを行い、年間を通して作品展覧を行っている。来院者や入院患者への癒しの提供という面での貢献活動と捉えている。

(3) 金融機関ギャラリー展示

包括協定を締結している金融機関のギャラリーに作品常設展示を行っている。数ヶ月に一度の割合で本学美術学科にある4つのコースが順番に作品展示を行っている。

(4) 剣崎なんばの販売用パッケージデザイン

平成24(2012)年5月に白山市剣崎地域の特産品である剣崎なんばの販売用パッケージデザインを依頼され、デザイン・映像コース2年生が制作に取り組み完成させた。

(5) 加賀笠間駅舎外壁ペイント

白山市より美術学科に加賀笠間駅東口駅舎外観デザイン及びペイント作業の依頼を受け、「社会と美術演習」の授業の一環として5月末～7月18日の期間、受講する美術学科2年生28人が取り組み、駅舎外壁ペイントを完成させた。

(6) ジオラマ制作

『昭和の片町・香林坊界限ジオラマ再現プロジェクト』に石川の美術系大学が協同でジオラマを制作し、本学美術学科は自動車のジオラマ制作を担当した。制作期間は6月～10月までの5か月間で、美術学科デザイン・映像コース2年生、油画・日本画コース2年生が制作に取り組み完成させた。

(7) スイーツ点心の販売促進

小松中華組合青年部等と協同で、小松の調味料を使ったスイーツ点心の販売促進の提案に取り組んだ。この取組は、美術学科1年生の授業である「地域美術演習」の授業内容として平成24(2012)年6月から取り組み、同年9月1日、2日には合宿研修で地域の情報リサーチを行った。その後同年11月11日に『いしかわ食のてんこもりフェスタ』に出店し、点心のパッケージ、ポスター、看板、キャラクターの制作を手掛け、点心の販売も担当した。これは、石川県地域連携促進事業に対する協力事業である。

(8) アニメーション制作

小松市より『乗りもののまち小松』という主題でのアニメーション制作の依頼を受け、美術学科デザイン・映像コースの2年生が、小松市のキャラクターやさまざまな乗りものが活躍する子ども向けアニメーションを9月～12月までの4か月間で制作した。

(9) ぬいぐるみ制作

能美市のキャラクター「のみまる」のぬいぐるみ制作の依頼を受け、美術学科ファッション・工芸コース2年学生が、10月～11月の2か月間で制作した。

(10) デジタル絵本の制作

『つたえよう美しき森推進委員会』の依頼を受け、『つたえよう美しき森デジタル絵本』を制作した。幼児・小学生向けの10話を制作し、県内の公立図書館に寄贈された。10月～12月の制作期間で1年生、2年生の有志学生13人が制作した。

(11) 集客力アップのための企画提案

加賀地区のフルーツランドの活性化提案プロジェクトの依頼を受け、集客力

アップのための企画提案を行った。10月～12月の期間に美術学科デザイン・映像コース2年生が取り組んだ。

(12) オブジェ制作

JR松任駅前に設置するオブジェ制作の依頼を受け、10月～3月までの制作期間を経て美術学科ファッション・工芸コース2年生が制作を担当して完成し、平成25(2013)年3月に設置された。

(13) 大学コンソーシアム石川の地域連携事業

平成24(2012)年度大学コンソーシアム石川が行う地域貢献型学生プロジェクト推進事業、地域課題研究ゼミナール支援事業において、本学の取組2件が採択された。特に、地域課題研究ゼミナール支援事業においては、「地域社会の教育力を活かした幼児教育について」(和泉ゼミ)が【畠山賞優秀地域課題研究ゼミナール】として選ばれ表彰された。

①【地域貢献型学生プロジェクト推進事業】

「恋人の聖地を活用した地域づくりー白山ろく全体で考えるー」を課題とし、学生12人のメンバーで、地域交流研究会(若月ゼミ)を立ち上げた。

ゼミのメンバー12人の中から3人が「恋人の聖地」をテーマに研究活動を行った。それ以外の学生もフィールドが白山ろく地区であったため、自分たちの研究の中(観光情報、観光イベント)には、「恋人の聖地」を意識的に考えながら、1年間行ってきた。

このテーマは、もともと白山一里野温泉観光協会が白山市の力を借りて「恋人の聖地」認定を受けた所から始まり、「白山温泉郷」の認定名を使用しているため、「白山ろく地域全体」の取り組みとしなければならないという問題を抱えていた。白山市観光推進部白山ろく振興課からの提案で、どうしたら「恋人の聖地」に若者が集うのかというテーマで投げかけられた。

1年をかけて、白山ろくでの体験、食、見学をし、まずはゼミ学生自身が白山ろくについて好きになること、次に恋人の聖地についての理解を深め、それをどのように広めていくかを課題について調査研究を行った。

②【地域課題研究ゼミナール支援事業】

「地域社会の教育力を活かした幼児教育について」をテーマに、和泉ゼミ、百海ゼミの学生18人で構成し、小松市の課題「理科大好き・ものづくり活性化」に取り組んだ。

かねてより小松市は、地域・家庭における教育力の低下の克服を、子ども育成の重大な課題と捉え、その重点施策として「自然体験・科学体験」を特化しつつ、地域社会との交流に重きを置いてきた。なかでも保育活動に多くの期待を寄せ、地域密着型の体験型学びを通して、豊かな子どもの育ちを保障していきたいと考えた。

保育の営みは、子どもの「生活と遊び」に集約されて展開する。その遊びの中でも「科学遊び」が他の運動遊び等に比して低迷している現状が、聞き取りによって確認されている。

こうした点に鑑み、自然観察を中核として、地域の諸団体との連携のもとで

実践する保育的支援のあり方を、本ゼミとしても追求していきたいと考えた。目的は、第一義に子どもの育ちを支えることにある。

小松市の、幼児から学童までの一貫した課題を、本ゼミは積極的に取り込み、一方、地域社会の教育力にも活路を得て、当初の研究目的は達成できたと考ええる。とりわけ、子どもの「感じる心」の高まりや「科学的思考」への道標となり得る保育の展開に、子どもの大きな変容を読み取っている。また、当該保育所を通しての地域への浸透は、保育は地域と共にとりという認識を一層強めた。

そのほか、本学の教員は、白山市をはじめとした地方公共団体や商工会議所等の審議会委員、審査員として、また各種講演会や研修会の講師などにより地域に貢献している。

- (b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

特になし。

- (c) 自己点検・評価を基に改善計画を記述する。

特になし。

基準 (3) 教職員及び学生がボランティア活動等を通じて地域に貢献している。

- (a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

学生のボランティア活動は、幼児教育学科学生が活発で、学科全体でその活動を支援している。平成 24 (2012) 年度も実習に関連した保育所、幼稚園、施設からの依頼、県、市町などからの依頼を中心に、約 50 回、延べ 400 人ほどの学生が活動を実施した。担当教員からの呼びかけに熱心に活動続ける学生も見られ、成果をあげている。また、ダンス部など地域のイベントへのボランティア参加も活発である。主なボランティア活動は次のとおりである。

①保育実習など実習関連の活動

実習先からの依頼で、保育所・幼稚園の運動会などの行事のお手伝いへの参加があった。また、障がい関係の社会福祉施設での活動では、実習生の 2 年生とこれから実習を考えている 1 年生が相互に刺激しながら活動できた。

②白山市松任図書館でのおはなし会

平成 16 (2004) 年度より、白山市松任図書館が主催する乳幼児向けのおはなし会に参加し、活動を継続してきた。平成 20 (2008) 年度からは社会人おはなしボランティアの会「ひまわりの会」と合同で毎月 1 回の土曜日に活動するようになった。

平成 24 (2012) 年度からは、この窓口を「保育実習指導 A 及び C」「教育実習指導」の担当である教員が受け持ち、保育所実習及び幼稚園実習の事前学習、事前体験と関連させて、学生への参加の呼びかけを行った。社会人ボランティアの方からの指導や助言が熱心なこともあり、参加学生にとっては、実習に向けてのよい体験ができたとの意見が多く聞かれた。

③やまのおじいちゃんおばあちゃんとの交流事業

平成 22 (2010) 年度から、白山市との協力で、「白山市山間部における世代間交流事業」を展開している。初年度は石川大学コンソーシアムの補助事業として活動していたが、平成 23 (2011) 年度からは石川県の「石川県地域連携促進事業」に連続して採択され、活動を継続している。

事業概要は、白山市観光推進部、NPO 法人「おやこの広場あさがお」、活動地区町内会と協力し、世代間交流のためのイベントを企画・開催した。具体的には、白山市の平野部の親子が山間部を訪問し、地域の高齢者と共同して、地域からの要望や季節に応じた活動を行った。22 人の学生が、幼児教育学科生としての専門性を活かして児童・幼児の世話にあたる他、高齢者や幼児には困難な作業にも従事した。イベント開催に際しては、事前に打ち合わせ、イベント終了後に反省会・成果発表を行った。

④子育て支援事業

石川県子育て支援財団からの依頼を受けて、今年度も「子育て支援メッセ石川」や「はだしの王国」の運営協力に学生が参加した。この活動は、親子でイベントに参加する乳幼児とその保護者とかがかわることができ、学生にとっては貴重な体験となっている。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

ボランティアに参加する学生が一部の学科に集中する傾向にある。

(c) 自己点検・評価を基に改善計画を記述する。

全学的なボランティア活動推進に向けての方策を検討する。